

域・活

いき・いき れんけい

連携

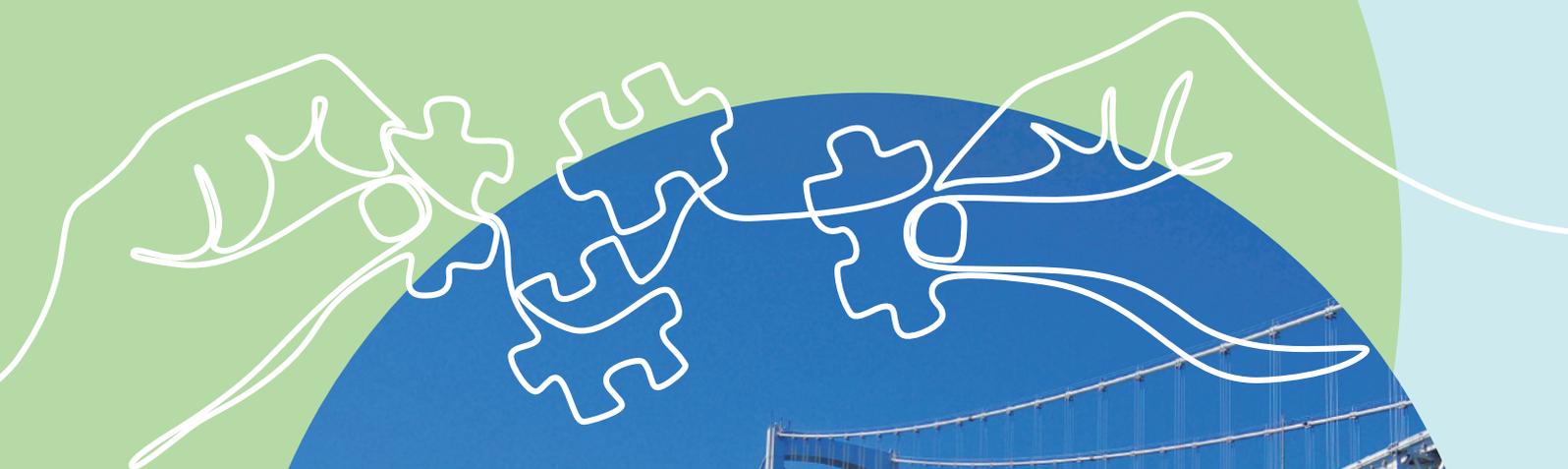
2024年11月発行

徳島県

特集

徳島県

徳島県における
脳卒中・心臓病等
総合支援センターを
中心とした
循環器病患者を地域で
支える仕組みづくり



徳島県における脳卒中・心臓病等 総合支援センターを中心とした 循環器病患者を地域で支える仕組みづくり

脳卒中、心臓病その他の循環器病は、我が国における主な死亡原因の上位である^{*1}とともに、介護が必要となる原因となっている^{*2}。徳島県では2020年10月に国が策定した「循環器病対策基本計画」に基き、他県に先駆け、「徳島県循環器病対策推進計画」を2021年10月に策定した。さらに令和4年度（2022年度）には、国の進める「脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業」に徳島大学病院が採択され、脳卒中・心臓病等総合支援センターを設立した。当センターを中心とした徳島県の循環器病対策について話を伺った。

[取材日：2024年9月9日] *記事内容、所属等は取材当時のものです。



(左から)
鎌村 好孝氏
徳島県保健福祉部 医務技監
佐田 政隆先生
徳島大学大学院 医歯薬学研究部循環器内科学 教授
脳卒中・心臓病等総合支援センターセンター長
岩瀬 司氏
徳島大学病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター
慢性疾患看護専門看護師

徳島県の健康寿命の延長を目標に

徳島県は、全国平均に比べて短い健康寿命を課題と捉え、その原因の一つが循環器疾患であると考えたことから、以前から循環器病対策に取り組んできた。

鎌村好孝さんは、「心疾患と脳血管疾患を合わせた循環器疾患の死亡原因はがんに次ぐ上位^{*1}であり、介護が必要となる疾患として、健康寿命にも大きな影響を与えることから、循環器疾患対策が県としても急務の課題となっていました」と話す。

佐田政隆先生は、「循環器疾患の急性期の予防と再発予防に県を挙げて取り組むために、まず徳島県循環器病対策推進協議会が設置されました。医師や看護師、保健師、薬剤師などの多職種に加え、循環器疾患の治療を受けている患者さんにも加わってもらい、

討議を重ねました」と、徳島県循環器病対策推進計画策定までの経緯を振り返る。

こうした取り組みが評価され、2022年の脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業（第一期）に徳島県が採択され、同年8月に徳島大学病院に脳卒中・心臓病等総合支援センターが設立された。

脳卒中・心臓病等総合支援センターの 役割と位置付け

脳卒中・心臓病等総合支援センターは主に、患者さん、家族および一般市民への相談支援、情報提供、徳島県における脳卒中・心臓病等の循環器疾患に対する診療連携体制の構築、国や行政と連携した患者支援体制の構築を行うことが目的である。

相談支援や情報提供は、同センター内に脳卒中・心臓病相談窓口を設置して、看護師・メディカルソーシャルワーカーが循環器疾患に関する相談を受け付けている。

岩瀬司さんは、「立ち上げに際しては、相談業務をベースに就労支援や啓発活動について考え、ホームページやリーフレットの作成や患者教室の企画など、できるところから始めました」と振り返る。



徳島大学大学院 医歯薬学
研究部循環器内科学 教授
脳卒中・心臓病等総合支援
センターセンター長
佐田 政隆先生

「循環器疾患は生活習慣病が大きな要因となります^{*3}。脳卒中や心臓病の死亡率を減らして健康寿命を延ばすためには、生活習慣病を減らすことも重要です。また、特定健康診査(以下、特定健診)を受けて循環器疾患の予防と早期治療につなげてもらえたらよいと思います」と佐田先生は話す。

啓発活動として岩瀬さんは、「県民公開講座や、血圧測定の街頭啓発などの他に、脳卒中の小児啓発にも取り組んでいます」と述べ、小学校高学年を対象に、早期発見・早期治療の重要性を伝えているという。

鎌村さんは、「健康づくりへの意識向上を図るため、スマートフォンアプリ『テクとく』^{*4}を運用しており、生活習慣病予防改善のツールとして県民の皆さんに

活用していただいています」と県の取り組みを説明する。

啓発活動にはメディアの利用も欠かせない。徳島県では、産官学による心臓病予防啓発活動も展開しており、佐田先生は、「公開講座、新聞、インターネットなど、それぞれのメディアを上手く活用することが大切だと思います」と述べる。

心不全・急性心筋梗塞地域連携 クリニカルパスによる医療均てん化

地域医療連携の構築も、徳島県循環器病対策推進計画の大きな取り組みの一つである。脳卒中・心臓病等総合支援センターは、心不全・急性心筋梗塞地域連携クリニカルパスを作成して、地域医療連携の構築に力を入れている。それについて佐田先生と岩瀬さんは次のように話す。

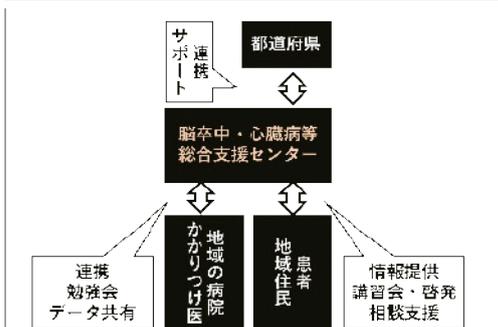
「急性心筋梗塞に関しては、以前から地域連携パスを使っていたのですが、新しい治療法も増えたので、急性心筋梗塞地域連携クリニカルパスを改訂しました。それに加えて岩瀬さんが、患者さんが生活管理や自分の状態を記録するための心血管手帳の改訂を行ってくれました。同時に、それまで心不全の地域連携パスはなかったので、新しく心不全地域連携クリニカルパスを作成しました」(佐田先生)

「心不全については、心不全指導療養士がパス運用

■ 脳卒中・心臓病等総合支援センター

脳卒中・心臓病等総合支援センターの構築

- 1, 地域医療機関の診療及び患者支援機能の向上
- 2, 国民がワンストップで必要な情報を得られる



センターの主な活動内容

- 心不全診療円滑化のための地域連携ネットワークの構築
- 心臓リハビリテーションをより良く行うための検討会
- 脳卒中診療を円滑に行うための地域連携パスの活用と検討会
- 脳卒中搬送を速やかに行うための救急隊と連携：FAST-ED
- 県内医療従事者に向けた勉強会・研修会の開催
- 徳島県と協働した活動

徳島大学病院ホームページ 脳卒中・心臓病等総合支援センターとは
(<https://www.tokushima-hosp.jp/center/stroke-cardiovascular.html>)
2024年11月閲覧



徳島大学病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター
慢性疾患看護専門看護師
岩瀬 司氏

には重要な役割を果たすと考えていますので、徳島県内で活動する心不全指導療養士を増やす必要があり、当センターでも勉強会等のサポートをしています」(岩瀬さん)

また、鎌村さんは、「心不全・急性心筋梗塞地域連携クリニカルパスを使って、地

域医療連携が強化されることで、患者さんが住み慣れた地域で最期まで暮らし続けることができる地域包括ケアの実現が期待できます」と述べる。

「脳卒中・心臓病等の重症化予防」の取り組みの成果と課題

徳島県循環器病対策推進計画^{*5}は2024年4月に第2期が策定され、2029年まで6年間で取り組みが進められる。

岩瀬さんは課題と展望として、「啓発の効果を十分に可視化できていませんでした。例えば血圧値や野菜摂取量の値といった数値や意識の変化について、何らかの形で可視化して、成果につながればと考えています」と話す。

佐田先生は、「独居で社会的フレイルの方々には病院に行けない状況があります。住み慣れた町で最期まで暮らしていただくためには、病院とかかりつけ医の医療連携だけでなく在宅医療も含めた福祉との連携が重要になってくると思います」と、現状の課題について言及する。

鎌村さんは、「行政としては、脳卒中・心臓病等総合支援センターを中心とした活動に対する認知度アップに取り組んでいきたいと思います」と述べる。

循環器疾患の急性期は、救急現場から医療機関により迅速かつ適切に搬送可能な体制構築を進める必要がある。

佐田先生は、「循環器疾患では、特に急性期の発症後は、適切な処置と、適切な医療を行える医療機関への迅速な搬送が重要です。こうした病院前救護活動(プレホスピタル・ケア)も徳島県循環器病対策推進計画の取り組みの一つです」と話す。

今後の展望

岩瀬さんは相談業務の課題と展望について、「多くの場合、アドバイス後のフォローアップができないところが課題です。将来的には看護外来のように患者さんを継続的にフォローしていける仕組みができればと思っています」と話す。

佐田先生は、「心不全・急性心筋梗塞地域連携クリニカルパスのデジタル化を実現したいですね」と話し、岩瀬さんも、「心不全手帳、心血管手帳、脳卒中心安心ノートなどをデジタル化していきたいと思います」と続ける。

鎌村さんは、「徳島県循環器病対策推進計画に基く脳卒中・心臓病等総合支援センターの取り組みは、循環器病の予防から医療福祉サービスまでが途切れることなく提供され、県民一人一人がその人らしく暮らせる徳島づ



徳島県保健福祉部
医務技監
鎌村 好孝氏

くりを推進するものです。健康寿命の延伸を目標に、徳島大学をはじめとする関係者と顔の見える連携を図りながら取り組んでいきたいと考えています」と今後について語る。

最後に佐田先生は、「循環器疾患は早めに診断することで、突然死を防ぐことが可能です。そのためにも多くの人に特定健診を受けていただきたいと思います。また、二次予防により再発を防ぐこともできます。こうした取り組みにより、1人でも多くの方が元気で長生きできるような社会になればよいと思います」と述べており、今後の展開が期待される。

【引用文献】

- ※1 厚生労働省 令和4年(2022)人口動態統計(確定数)の概況
(https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei22/dl/15_all.pdf)
2024年11月閲覧
- ※2 厚生労働省 2022(令和4)年 国民生活基礎調査の概況
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/dl/14.pdf>)
2024年11月閲覧
- ※3 日本臨牀 61(10)1837-1843, 2003
- ※4 徳島県ホームページ とくしま健康ポイントプロジェクト テクとく
(<https://kenko-tokushima.jp/>) 2024年11月閲覧
- ※5 徳島県ホームページ 徳島県循環器病対策推進計画 第2期
(<https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippanokata/kenko/kenko/2008042400039/>)
2024年11月閲覧